



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.75

Newsletter of the Gunma Museum of Natural History 2019.春

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

**同居 第60回 企画展**  
**いきものの 図鑑**

**8月は、毎日開館**  
**Happy Monday**  
ハッピーマンデー

毎週月曜日先着**500**名様に  
**ミニグッズプレゼント**

2019  
**7/13**土 ~ **9/1**日

休館日 7/16(水)-7/22(月)-7/29(月)

開館時間 午前9時30分から午後5時まで (ただし、入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般720円(570円) ※( )内は、有料観覧者20名以上の団体料金  
高校・大学生410円(320円) ※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳を  
中学生以下無料 ※持参の方及びその介護者へは無料 ※上記料会で学芸員も観覧できます

キモカワの  
ぼくたちを  
見に来てね

群馬県立自然史博物館  
GUNMA MUSEUM OF NATURAL HISTORY  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 TEL 0274-60-1200  
〔主催〕群馬県立自然史博物館  
〔後援〕上毛新聞社、NHK前橋放送局、群馬テレビ、エフエム群馬、ラジオ高崎

## <イベント開催!>

### ○企画展ワークショップ

#### 「ゴキブリ博士になろう!」

7月14日(日) 10時30分~11時15分

(博物館実験室)

講師…有吉 立さん(アース製薬)

### ○企画展講演会

#### 「害虫100万匹を飼育する仕事の話」

7月14日(日) 13時30分~15時30分

(博物館学習室)

講師…有吉 立さん(アース製薬)

「ゴキブリ100万匹を飼育する  
G 専門家、有吉 立さんの講座です」



©伊藤ハムスター

### ○企画展スペシャルトーク

#### 「子どもに向けて話す、昆虫や虫とのつきあい方」

8月7日(水) 11時00分~12時00分

14時00分~15時00分の2回

(博物館学習室)

講師…久留飛 克明さん(昆虫科学教育館 館長)

「NHK 子ども電話相談室 虫の先生とお話イベント」



### ○企画展講演会

#### 「生き物たちとの付き合い方 ~外来種リスク・感染症リスクを知る~」

8月25日(日) 13時30分~15時30分

(博物館学習室)

講師…五箇 公一さん(国立環境研究所)

「テレビでおなじみ、あの五箇先生による講演会」



©ウラケン・ボルボックス

すべて電話事前予約/詳しくは博物館イベントガイドやHPでご確認ください

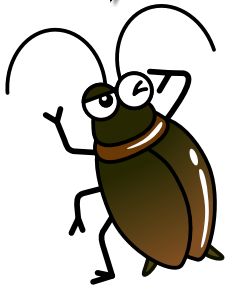
## 企画展案内

# 第60回企画展「同居いきもの図鑑」

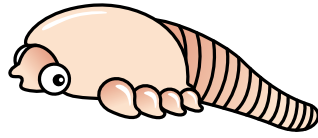
令和元年7月13日(土)～9月1日(日)

みなさん！ みなさんとともに暮らしている**いきもの**って何だろう？「家族やペット」のほか？  
そう、家にすみついている**いきもの**、入ってくる虫、そして、寄生虫など。普段は、見たくないのだからと見ていない**いきもの**のたちを、この企画展で紹介します。

特設のGホイホイハウスの中でゴキブリをよく見てみよう！ゴキブリの20倍拡大模型もあるよ。



「Gホイホイハウス」



「人にすみつくいきものたち」

寄生虫などを見てみよう！顔ダニやシラミが見つかるかな？



「家にすみつくいきものたち」

家の中ではどんないきものが、どこにいるのかな？ネズミや蚊の巨大模型と写真も撮れるよ。



「明日からの生活」

今後身近になるかも知れないいきものたちをここで知ろう。「ヤマビル」も見られるよ。

(地学研究係 茂木 誠)

## 自然のコラム 海藻シリーズ② ～緑藻類・紅藻類～

緑藻類は水深の浅いところで多く見られ、日本で約250種類が見つかっています。おみそ汁の具になっているアオサノリは、ヒトエグサという緑藻です。青のりとして食べているのは、スジアオノリなどのアオサ類です。名前がややこしいですね。他にも、クビレヅタ(海ブドウ)、ミル(海松)、アナアオサなどがあります。

紅藻類は日本で約900種類が見つかっています。海藻の中でも多様性に富み、ヒラフサノリ、ユカリ、アヤニシキなど、色鮮やかなものが多いです。また、食用になる種類も多く、寒天やところてん

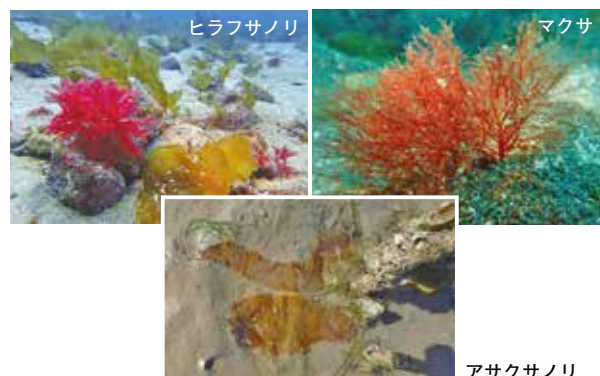
の原料となるテングサ類のマクサが有名です。食卓にあがる海苔は、現在では病気に強いナラウスサビノリが使われています。昔はアサクサノリが使われていましたが、絶滅が危惧されています。

海藻は色がきれいで魅力的です。海藻の生態や特徴、他の生きものとの関わりなど、不思議がたくさんあります。10月からの企画展で海藻について詳しくお伝えします。お楽しみに！

(生物研究係 伊藤 智史)

### 参考文献

ネイチャーウォッチング ガイドブック海藻 誠文堂新光社



# 研究の扉 群馬から見つかった新種のイルカ

今年の春、群馬県から見つかった新種のイルカ化石が報告されました。ケントリオドンという現在では絶滅してしまっ

たイルカの仲間、今からおよそ1150万年前の群馬の海を泳いでいま

した。ここではこの化石の発見から新種になるまでの話を紹介します。

今回報告された化石は合計で7つの標本です。そのうちの6つは安

中市在住の中島一さんによって、確氷川の河床か

ら発見されました。中島さんは今回のイルカ化石だけでなく、カメや鳥など、これまで数多くの貴重な化石を発見されています。新種を報告する際の基準となる標本（ホロタイプ：図1）も中島さんが発見したものです。今回報告した標本の1つは、当時吉井町在住の北川道啓さんによって

鑑川で発見されました。小学5年生だった北川さんは弟と一緒に遊んでいたときに、足下に変った色をした石があることから化石に気付いたそうです。図2は実際に化石を発掘している様子です。写真中央の岩石に化石が含まれていました。岩石から化石を取り出すクリーニング作業の結果、イルカの腰から前の部分がほぼ完全に保存されていることがわかりました（図3）。

次はこれらの化石がどのような仲間のイルカなのかを調べます。そのためにはこれまで世界中から知られているイルカ化石についての論文を調べます。そしてその結果、今回の化石は現在生きているマイルカなどの仲間の祖先に近い仲間「ケントリオドン科」であり、その中でも「ケントリオドン属」に含まれることがわかってきました。さらに詳しく調べるため化石が収蔵されているいくつかの博物館に行って標本の観察をしました。図4はアメリカのワシントン DC にあるスミソニアン自然史博物館に収蔵されている化石標本 *Kentriodon pernix* のホロタイプと群馬産の標本を比較しているところです。本



図1 中島一氏により発見された新種の基準となった標本（ホロタイプ）。



図2 化石の発掘。中央の黒い服を着ている小学生が発見者の北川道啓さん。



図3 クリーニングされた化石。

当は実物の化石を持って行き、実際に標本を並べて比べるのが一番良いのですが、さすがにそれは無理です。そこで今回は博物館で標本の3D スキャンを行い、パソコン上での3D データを利用するとともに、それを元に出力した3D モデルを持参して比較しました。

このような調査を通して、今回の標本では頭の骨に他では見られない特徴があることが確認されたことから、これらの標本をケントリオドン属の新種 *Kentriodon nakajimai*（ケントリオドンナカジマイ）とする論文を発表しました。*Kentriodon nakajimai* というのは生物の正式な名前である学名です。種名はホロタイプの発見者である中島一さんに由来します。

図5は *Kentriodon nakajimai* の生きていた当時を復元した生体復原図です。より多くの方に新種のイルカがどのような生きものだったのかわかりやすく伝えられるよう、足寄動物自然史博物館の新村龍也さんとともに生体復原作画プロジェクトをすすめました。新村さんは復原画などの技術はもろんですが、クジラ化石の論文も出版されたことがある化石の専門家でもあります。新村さんと何度も議論を重ね、化石に残されている手がかりをひとつひとつ積み重ねて生きていた当時の姿を復原していきました。細長くちばしの部分や体全体のプロポーションなど、何気なく描かれているようで実はたくさんのこだわりがあります。また復原画には合計7個体のイルカが描かれています。これは新種とした論文で7つの標本が記載されていることにちなんでいます。もちろん実際にはこれら7標本が同じ時期に泳いでいたという

ことはあり得ませんが、群れをなして群馬の海を泳いでいた彼らの様子に思いを馳せてもらいたいという思いが込められています。

現在 *Kentriodon nakajimai* のホロタイプは当館の常設展示室内で展示されています。ぜひ直接実物の化石をご覧ください。1150万年前の群馬の海を感じていただければ幸いです。（生物研究係 木村 敏之）



図4 スミソニアン自然史博物館での比較標本の検討（長谷川名誉館長）。

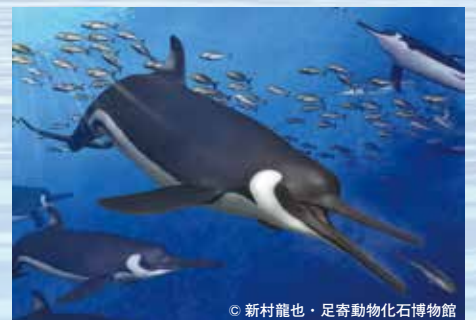


図5 *Kentriodon nakajimai* 生体復原画

# 博物館ボランティア視察研修

自然史博物館では、開かれた博物館として、利用者へのサービス向上と、県民参加による博物館事業の推進、県民による生涯学習の場の提供のため、5区分（解説、資料整理、発送、サタデー、天文・天体）の博物館ボランティアを設けています。今年度は、総勢80名の登録があり、それぞれ自分の得意とする分野で自分のペースで自主的に活動しています。

さて、他の博物館で活動しているボランティアさんと情報交換の場をもち、博物館ボランティアとしてよりよい活動を目指すために、博物館ボランティア視察研修を実施しました。今回は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館の皆様のご高配を賜り、2月24日（日）に実施することができました。当日は、当館の博物館ボランティア22名が参加し、博物館職員3名が同行しました。

当日は、ボランティア担当の職員の方からミュージアムパーク茨城県自然博物館のボランティアの体制について説明をいただいた後、いくつかの班に分かれてボランティアで活動している方からのお話をうかがい交流の時間も持たせていただくことができました。とても貴重な情報交換の時間となりました。また、当館で行っているサイエンス・サタデーとよく似たイベントであるサンデーサイエンスの開催を見学する時間もいただきました。ボランティアの方々がどのように活動しているか実際にお話をうかがうこともできました。



ミュージアムパーク茨城県自然博物館で行っているボランティア活動のシステムは、当館で行っているものと違いはありますが、その目的や意義については、共通する部分がたくさんあります。多くの刺激とこれからの活動を充実させていくためのヒントやエネルギーをいただきました。勉強になり、実り多き一日となりました。

## 「ボランティア視察研修に参加した方からの声」

●茨城自然博物館は初めて行くことができ、素晴らしい環境と施設、そしてボランティアの方々の熱心な取り組みに感心すると共に、我が自然史博物館も参考になる所は沢山取り入れて、ますますボランティアの活動を充実させなくては！という気持ちを強くしてきました。また、普段なかなか話をする機会がなかったボランティアどうしで、お話ができ、とても良かったと思います。

●今回、視察研修に参加させて頂きとても貴重な経験をさせて頂きました。茨城県自然博物館のボランティア活動はとてたたくさんの分野に別れており、それぞれの担当の方々がチームワークを組み、生き生きと活動を行なっている事がわかりました。実際に茨城のボランティアの方々の体験を聞かせて頂く事で自分自身のボランティア活動にも活かしたいと思う部分もありました。

また、施設内の展示物もかなり充実しており、ディスプレイなども本当に美しく、アイデア一杯の物ばかりで感動しました。できればもっとゆっくりと見ていたかったので、今度はプライベートでも来館してみようと思います。両博物館の職員の方々とボランティアの方々には本当にお世話になりました。

（教育普及係 月田 典寿）



## 利用案内

■開館時間 午前9:30～午後5:00（入館は午後4:30まで）

■休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）

■観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	510円 (410円)	300円 (240円)
第60回企画展開催時 (R1.7.13～9.1)	720円 (570円)	410円 (320円)

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料となります。

※（ ）内は、有料者20名以上の団体料金となります。

## 群馬県立自然史博物館だより Demeter No.75

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>



Demeterは、地球環境保全のため植物油インクを使用しています。